

健康 進取 敬愛

北中だより

文責:三田 康弘

保護者の皆様・生徒の皆さんへ

中・高校生『サイクルサミット』で学んだこと・知ってほしいこと

11月26日(土)に前橋の総合交通センターにて、「平成28年度中学生・高校生サイクルサミット」が開催され、120名近くの中高生が集まりました。本校では2年3組の坂本敦君が生徒会代表として、参加してくれました。その時の様子をお知らせします。

サイクルサミットでは、1. 交通安全に関する実技・講義 2. 交通事故防止の取組についての情報交換 の大きく分けると二つが行われました。

1. 交通安全に関する実技・講義

(1) 自転車点検のポイント

『ブタはしゃベル』の合言葉に沿って、自転車に乗る前に点検するのが良いとのことでした。

- ブ ブレーキのきき具合を点検する。
タ タイヤの空気圧を見る。
は ハンドルが曲がっていないかを点検する。
しゃ 車体に異常がないか点検する。
ベル ベルがしっかり鳴るかどうか点検する。

(2) 県内で多く見られる中・高校生の自転車事故について

- ①ヘッドフォンを使用していたので、後ろから来た自動車に気付かなかったために起きた事故
→自転車に乗りながらのヘッドフォンの使用は交通違反です。
- ②駐停車している車のすぐ脇を通ろうとしたときに、急にドアが開いて、ドアにぶつかって起きた事故
→明らかに車の方が悪いのだが、ドアが開くことも予想して通る方が良いです。
- ③脇道から車が来たが、車が停止線よりも先に出て止まったために、ぶつけられてしまった事故
→この事故も車の方が悪いのだが、自分の方が優先だと思わないで、そのような運転をする人がいるのでこちらで気を付ける方が良いです。
- ④信号機のある交差点で、左折して車がいたので、横断歩道を渡る手前で止まって待ってい

ただ、自転車の前輪が停止線よりも前に出ていたために、タイヤの内輪差により車の後輪にひかれてしまった事故

特に夜間のときには、横断歩道の手前で自転車が止まっても車からは見えません。決して停止線から出ないで、車が左折してから渡ることです。

(3) 群馬県内の中学生による交通事故の現状（平成27年4月～平成28年3月）

- ・発生件数367件のうち95%が自転車に乗っているときの事故
- ・事故の70%は交差点で起きている。
- ・事故の44%が1学期に起きている。
- ・事故の27%が1年の男子によるもの。
- ・事故原因の43%が徐行運転をしないでスピードを出し過ぎていた、一時停止をしなかったことによるもの。
- ・中学生に多い自転車交通違反は、二列以上の並進が一番多く、次は一時不停止によるもの。

2. 交通事故防止の取組についての情報交換

8人前後でグループを作り、一人一人が自分の学校の取組について発表し、その情報を元に自分たちはどんなことを今後すべきかを話し合いました。坂本君は、1年生を対象にしている交通安全教室について説明し、課題として生徒会の取組も話しました。

【各学校での取組】

- ・交通安全教室を実施している
- ・自転車点検を実施している。
- ・生徒からアンケートを取り、それを元に危険箇所を表示した交通安全マップを作った。
- ・交通安全標語を募集し、良い作品を校内に掲示した。
- ・自転車に乗っていて、危ないと思った場所や事柄を周りの人に広めるようにする。

【今後やりたいこと】

- ・交通安全について、クラスで話し合う時間や機会がないので、持ちたい。
- ・下校時に生徒会役員などが交差点に立って、交通安全について生徒に呼び掛ける。
- ・交通安全マップを家庭にも配付して、保護者にも知ってもらう。

坂本 敦 君 の 感 想

僕は北中学校の代表として『サイクルサミット』に参加し、場面ごとの交通事故の起こり方について詳しく知りました。そのお陰で、僕は自転車に乗っているとき、教えてもらったことに気を付けながら乗るようになりました。他の学校の人達との情報交換では、他の学校がどのように交通事故防止のために取り組んでいるのかが分かり、とても参考になりました。高校生の発表を聴いていると、「やっぱり高校生だからそんなこともできるんだなあ。」と感心しました。僕はこの『サイクルサミット』で自転車の乗り方から交通事故に遭わないようにすることまで、多くのことを学び、深く考えさせられました。とてもいい勉強の機会をもらいました。